

【研究報告】 B-4

被災動物に対する意識調査：被災を経験した乗馬クラブ関係者と他集団の違い

銀梓¹⁾・水越美奈¹⁾・濱野佐代子²⁾・望月真理子¹⁾

¹⁾ 日本獣医生命科学大学、²⁾ 帝京科学大学

緒言：竜巻による災害時に、避難を選択しなかった多くの飼い主が、その理由としてペットを同行させることが難しかったことをあげている (Hunt et al., 2012, Animals)。従って、飼い主の生命を守るためにも、ペットを避難させることは重要であると考えられる。また、被災した動物が放浪動物となること、そして衰弱、死亡などの状態に陥ることは、動物愛護の観点からも、住民の安全や衛生面といった公衆衛生の観点からも望ましいことではない。他方、被災者の精神的な安定のためにも動物の存在は大きいと考えられる。本研究では、被災経験を持つ乗馬クラブ関係者を中心に被災動物に関する意識調査を行った。

材料と方法：東日本大震災による被災を経験している乗馬クラブ（女性 26 名、男性 9 名、38.15±2.39 才）と経験していないクラブ（女性 16 名、男性 8 名、45.75±2.61 才）の会員および乗馬インストラクター計 59 名を調査対象とした。乗馬クラブでの調査では、アンケートの対象はイヌ、ネコなどの家庭動物であり、ウマは対象外であることを口頭にて説明したが、ウマの避難に関する自由記述欄を設けた。他方、関東近県の一旅館で、被災動物や飼育放棄された動物に対して寄付をおこなった人（女性 17 名、男性 3 名、56.55±2.83 才）にも同様の回答をしてもらった。性別、年齢および動物の飼育経験の有無、被災動物に関する知識の有無を回答後、被災動物に関する 6 項目の設問に対して、「重要である」から「重要ではない」の 5 段階より選択してもらった。有意差の検定には、Scheffe の検定を用いた。

成績と考察：被災動物という言葉に対する知識の有無により、全体を 2 分した。「知っている」と回答した人 (n=61) では、「知らない」と回答した人 (n=18) に対して「大学や団体で、一般を対象とした被災した動物に関する講演を行うこと」の 1 項目を抜き、重要視する傾向が有意 (P<0.05) に高い成績が得られた。被災動物という言葉を知る集団は、被災動物に対する関心が高いため、色々な項目を重要視している可能性が考えられた。被災乗馬クラブ、非被災乗馬クラブおよび動物への寄付行為を行った集団の 3 群間の比較では、「被災時におけるペットの救護をすること」と「災害時にペット動物に対して寄付金や支援物資を集めること」の項目で、いずれも被災乗馬クラブで重要視する傾向が有意 (P<0.05) に低い成績が得られた。3 群間の比較においても、有意差がなかった項目は、「被災時に、ペットと同行し避難できるように一般に知識を持ってもらうこと」の 1 項目のみであった。以上のことは、被災乗馬クラブにおいても、他集団と同等に本項目に対して重要視する人が多かったことを示しており、寄付金などの援助よりも、まず多くの人の理解が必要であることを被災現場において切実に体験したことを示唆するものと考えられた。

謝辞：本研究は、一般財団法人ペット災害対策推進協会研究助成の援助を受けて遂行された。